



16 淡煙

一面

中村不折

明治三十一年(一八九八)

油彩、キャンバス

八四・五×一三二・九

霞がかった彼方に連なる山並みを背景に、やや高い位置から俯瞰した刈入れの進む農村の様子が、点描風のタッチを活かしながら丁寧に描写されている。家々からは夕餉の支度をする煙が立ち昇っている。作者の中村不折(一八六六―一九四三)と旧知の間柄であった正岡子規によれば、ここに描かれているのは洪川よりのぞむ赤城山の眺望だという(『墨汁一滴』明治三十四年六月二十八日条)。群馬県渋川市は古くから関東と越後を結ぶ三国街道の宿場町として栄え、米麦の二毛作を行ってきた。本作の画面左下に画家の署名とともに「戊戌初夏画之」とあるので、手前に描かれた農村風景は明治三十一年(一八九八)六月頃の麦の収穫の様子であろう。

子規は本作の制作背景にもふれており、不折が一度描きあげて浅井忠に見せたところ、広大な空間を描いているのに遠近が定かでない指摘され、再度洪川を訪れ一週間で描き直したという。その修整を経て、近景から遠景へと色調の変化と明暗によって織り成されるようになった雄大なパノラマは、それまでの日本の洋画には少なかったものである。完成翌年の同三十二年の明治美術会第十回展に出品され宮内省買上となった、不折にとっての出世作である。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

海と山のあいだ ―近代日本の風景描写

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 86

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社アイワード
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
令和二年七月二十三日発行

©2020, The Museum of the Imperial Collections, Sanmomaru Shozokan